

令和3年度アイヌ施策推進地域計画 中間目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	(中間) 目標年度
札幌市	札幌市アイヌ施策実施プラン	令和3年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における (中間) 目標	目標値 (A)	実績値 (B)	達成率 (%) (B/A)	備考
体験交流事業参加者数	150 人/年間	52 人/年間	35%	
文化体験講座参加者数	240 人/年間	68 人/年間	28%	
アイヌ文化交流センター来館者数	58,000 人/年間	13,243 人/年間	23%	
アイヌ民芸品販売会購買者数	900 人/年間	508 人/年間	56%	
体験プログラム参加学校数	130 校/年間	123 校/年間	95%	

アイヌ施策推進地域計画における (中間) 目標	達成状況	備考
体験交流事業参加者数	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部講座の開催を中止したことにより、目標値の達成には至らなかった。	
文化体験講座参加者数	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部講座を中止としたことにより、目標値の達成には至らなかった。	
アイヌ文化交流センター来館者数	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、やむなく臨時休館期間（5月4日～7月12日、8月3日～9月30日）を設けたほか、一年を通して来館者が大幅に減少し、目標値の達成には至らなかった。	
アイヌ民芸品販売会購買者数	新型コロナウイルス感染症の影響により、会場周辺（札幌駅前地下歩行空間）の人流が減少し、来場者数も減少したため、目標値の達成には至らなかった。	
体験プログラム参加学校数	新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成に至らなかったものの、参加学校数は前年度 112 校に比べて 11 校増加した。	

【札幌市アイヌ施策推進委員会委員による意見等】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による目標値未達成については、やむを得ないものとする。
- ・ 各目標について、達成率の差異がどのような要因で生じたのかを検証し、今後の事業実施方法を検討すべきである。

- ・ イベントや講座の開催について、新型コロナウイルス感染症禍においてはリモートの活用を検討すべきである。
- ・ 札幌市アイヌ文化交流センターについては、魅力ある独自のイベントや講座の実施、効果的な広報の実施により、その認知度アップに注力すべきである。

2. (中間) 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

(1) アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験交流事業は、令和2年度から令和5年度まで、各年度とも数値目標を150人/年間としている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を優先としつつ、実施内容や広報の充実などを図り、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
体験交流事業の実施を通じ、市民がアイヌ文化を気軽に体験できる機会に加え、アイヌ文化の担い手を育成する機会を創出した。	

(2) アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
文化体験講座は、令和4年度以降、300人/年の達成を目指している。令和3年度は目標値の達成には至らなかったものの、1講座当たりの参加者数は、昨年度を上回っているものも見られた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しつつ、開催内容の充実などを図り、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
市民が気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れ、理解を深める契機を創出した。	

(3) 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
札幌市アイヌ文化交流センターの来館者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により伸びなやんでいるものの、令和5年度において62,000人/年間を目指している。令和4年度は展示物や展示案内等の充実に加え、同センターに関する広報の充実を図り、引き続き数値目標の達成に取り組む。 また、アイヌ民工芸品販売会における購買者数は、令和5年度において1,000人/年間を目標としている。令和元年度以降、当事業における出品作家数は増加しており、商品ラインナップの充実や、アイヌ工芸品に関する魅力紹介などに取り組み、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
屋内外の展示物の更新や、展示案内の多言語化を図り、来館者がアイヌ文化について理解を深め	

るための環境がより一層充実した。

また、販売機会の確保を通じ、都心部において、気軽にアイヌ工芸品を購入でき、生活の中で身近にアイヌ文化に触れられる機会を創出した。

(4) 地域内若しくは地域間の交流及び国際交流の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験プログラムは、令和元年度から令和5年度まで、各年度とも数値目標を130校／年間としている。無料送迎バスの導入やムックリの体験機会の提供を行い、令和元年度以降、実施校は増加している状況にある。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しつつ、新規実施校の確保など、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
体験プログラムの提供により、児童・生徒がアイヌの歴史や伝統文化について理解を深める契機を創出した。	

3. 今後の方針等

- ・各事業の達成率の差異を分析し、新型コロナウイルス感染症禍における効果的な事業の実施手法を検討する。
- ・札幌市アイヌ文化交流センターについて、展示物や展示案内、イベントや講座の魅力アップに加え、適切かつ効果的な広報を行い、施設認知度の上昇を図る。